

1) 著作権保護のための表示

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

2) 研究会基本情報

タイトル：「東アジア・東南アジアの諸言語における談話小辞の意味研究」（平成29年度第1回研究会）

日時：平成29年10月7日（土曜日）午後13時より午後18時

場所：AA研302室等

使用言語：英語

13:00 Eric McCready (AA研共同研究員, 青山学院大学)

開会の挨拶

13:15 Hiroki Nomoto (AA研共同研究員, 東京外国語大学) & Asako Shiohara (AA研所員, 東京外国語大学)

"On the non-additive uses of Malay additive particle pun"

14:30 Naonori Nagaya (AA研共同研究員, 東京外国語大学)

"Confirmational particles in Tagalog"

15:45 David Y. Oshima (AA 研共同研究員, 名古屋大学)

"On the no-da construction"

17:00 全員での討論およびまとめ

最終年度である今年度第1回の研究会では、当初計画に従い、個別言語の具体的な現象の分析に関する発表とそれに関する全員での質疑・議論を行った。今回、取り上げられたのはマレー語の小辞pun（野元・塩原）、タガログ語の小辞ano、diba（長屋）、日本語のノダ構文（大島）である。野元・塩原は、punの用法のうち、これまで「時間的継起」の用法とされてきたものが、添加用法の一部であると主張し、Question Under Discussion（話題になっている質問）の枠組みによる談話構造に基づく分析を提案した。長屋は、2つの確認の小辞の容認可能性の違いを指摘し、聞き手が命題内容を信じているかどうかの違いがあると主張した。大島は、ノダの形態分析からスタートし、「発見」のノ（ダ）をmirative（気付き）の標識として捉えることを提案した。いずれの発表の際も、発表の途中で参加者から質問や分析の問題点の指摘があり、各自の研究を発展させるものになった。